

文化財石垣保存技術協議会会報

平成25年(2013) 第11号 ー平成25年度事業報告ー

技能者養成研修(実技研修)[第2回研修会]

日時 平成25年10月12日(土)～10月15日(火)

場所 真鶴石切場(神奈川県真鶴町)

参加者 技能会員7名、技術・研究会員1名、
一般会員4名

研修内容

研修項目	講師
石積・石材加工	會澤敏夫(株小・林石材工業・本協議会会員)
	岡 敏夫(岡石材・本協議会会員)
	菊井知紀(中村石材工業株・本協議会会員)
	水野賀道(水野土木・本協議会会員)
石材調査記録	西川禎亮(中村石材工業株・本協議会会員)



～研修担当幹事よりひとこと～

文化財石垣保存技術協議会の実技研修も昨年で5回が過ぎました。この間、手探り状態であり受講生の皆様には十分な成果が得られなかったことと思います。しかし回を重ねるごとに一歩ずつでありますが確実に前進しております。近年では解らないことがわかるようになり、できないことができるようになり、少しは楽しく研修を行うようになってきました。

例えば、石を積む作業では、自らの経験で判断してきましたが、研修会では隣りの人の作業を見て、また相談して行えます。石を割る作業は、矢の大きさと数の原理を知り徐々に効率よく割っていきます。道具の手入れは、初心者でもその作業の重要性や鉄の冷める温度で硬さが解るようになっていきます。

1年の内で3日間の短い期間ですが、回を重ねる事により身につけてきた事もあります。

また昨年より、実習生がリーダーになりパート実習を行っております。これは、教えることにより自ら学び、より広い知識や技術を会得し、成長していただく事を目的に始めました。

この研修会を行うにあたり、最も重要なことは次の2点のようなことではないかと思っております。

① 従来の職人を育てる場がなくなり、実際に指導してくれる人が身近になくなりました。このため自身の技術が果たして世間で通用するのか、他の職人がどのように行っているのかが解らずに不安になります。また、作業に対する視野が狭くなり、新しい工夫や技術、道具がわからずに、しなくてもいい



石割実習



石積実習



石材加工実習

い苦勞をしています。このために当協議会が発足し、幅広く技能者を育てていく場として活用でき、研修生同士のコミュニケーションにより色々な悩みを話し合うことができます。

② 下の写真は昨年の研修会でのセレモニーです。研修生が積んだ石積みの根石を無理矢理に引き抜いています。上部の石が動くか動かないかで今年の研修の良否を判断します。今までの成績は3勝1敗で空積みの場合でも丁寧な仕事を行うと変形しない事を学びます。平成25年7月の研修会（座学）では備前石工について学びました。その際に紹介された瓢箪の石垣を研修生が真似て挑戦しました。2日間に及ぶ苦闘の末に最後は研修生全員に見守られて、完成することとなりました。この作業は割る作業から切る作業、さらに削る作業が必要になりますが、研修会ではそのような道具は準備しておりません。その際に、道具の大切さを知りました。

このように実地研修を進め、研修を終えて道具の大切さを知っていただくと幸いです。

最後に、研修会は楽しく続ける事が大切だと思っております。近くで研修会がある時は、是非参加して下さい。



第11回全国城跡等石垣整備調査研究会(共催)

日時 平成26年1月23日(木)～25日(土)
場所 萩市民館大ホール(萩市大字江向495番地4)
参加者 技能会員19名、技術・研究会員17名、
評議員1名、一般会員4名、賛助会員2名

開催趣旨

テーマ 『石垣整備から学ぶまちづくり』

主催 文化庁 萩市

共催 文化財石垣保存技術協議会

研究会内容

平成26年1月23日(木)

項目	発表者等
主催者挨拶	野村興兒(萩市長)
共催者挨拶	栗田純司(文化財石垣保存技術協議会会長)
大会趣旨説明	本中 眞(文化庁文化財部記念物課主任調査官)
基調講演	堀 賀貴(九州大学教授)
報告1	西川雄大(萩市歴史まちづくり部)
報告2	宮田健一(津和野町教育委員会)

平成26年1月24日(金)

主催者挨拶	榎本 剛(文化庁文化財部記念物課長)
報告3	時元省二(三原市教育委員会)
報告4	中村啓太郎(福岡市経済観光文化局)
報告5	田畑 基(朝来市教育委員会)
報告6	水田周一(文化財石垣保存技術協議会)
討論会	テーマ『石垣整備から学ぶまちづくり』 司 会 柏本秋生(萩市歴史まちづくり部)
まとめ	本中 眞(文化庁文化財部記念物課主任調査官)
次期開催地挨拶	佐藤正幸(名古屋市民経済局)
閉会挨拶	野村興兒(萩市長)

第11回の研究会は山口県萩市で開催されました。会場にあしらわれた冬の萩を象徴する椿が印象的でした。

堀賀貴九州大学教授による基調講演では、ポンペイやエジプトの遺跡と日本の石垣との比較など新しい視点で石垣をとらえた内容でした。中でも「～時代が変わっても古い工法は残る。建築の研究者は当然だと思っておりますが、時代がどんどん新しくなっても古い工法は当然残ると。したがってこういう古い工法なのだからこの壁は古いということは必ずしも言えない。ただ古い可能性があるだけだ。～」というような時代性を判断する場合の留意点には納得しました。

その後各方面から報告発表がなされましたが、本協議会員の水田氏から発表されたお寺の石垣についての事例報告は、城郭石垣とは異なった発注者側の課題や、周辺環境との整合性の課題など社寺や民間所有の石垣に関する問題が示唆され、印象的な内容であったと思います。



【本中 眞氏(文化庁文化財部記念物課主任文化財調査官)によるまとめ概要】

今回のテーマは「石垣整備に学ぶまちづくり」というテーマを設定し、史跡萩城跡をフィールドとして議論するということを目的としていました。～中略～

ここ10年間は、常に石垣をどのように修理し、その本質的価値を次の世代に伝えていくために私たちは何をすべきか、あるいは何をしてはいけないのか、といくことを常にこの研究会で確認する作業を行ってきたように思います。しかし～中略～史跡全体をどのように管理していけば本来の史跡の価値が伝えられるのか。もちろんその中には城跡における石垣の修理、技能、技術の全てを含めた形で、次の世代への価値の伝え方も議論の対象になると考えたわけです。したがって、史跡としての城跡の一部を成す石垣の修理に技術・技能の観点から携わる人たちが、城跡が持つ本来の価値・意味は何なのか、それが次の世代に継承できるのか、そこに含まれる技術・技能、それらの結晶であるさまざまな歴史的な証拠をどのように伝えていくのか。そのような論点をもう一度確認する作業が要るのではないかと考えたわけです。～中略～

石を積むという行為とその痕跡は、城跡だけでなく城跡が依拠している城下町の随所にもさまざまな形で残されています。その総体を捉えることも大切であるという観点からも、今回のテーマ設定があったということでございます。～中略～

遺構の残し方、残す方法についても、今後大きな課題になってくるでしょう。発見するだけでなく、それをどのように残し、伝えていくのかといくことを地域の人たちと共有していける場が必要だということだと思います。今日のパネルディスカッションの中にも、そのような論点が出ていたかと思えます。(以下略)



後継者育成研修

日時 平成26年2月12日(水)～2月15日(土)

場所 特別史跡姫路城跡 石垣保存修理工事現場
(兵庫県姫路市)

参加者 技能会員1名

研修内容

研修項目	内容・講師
現場見学	抜け石補充作業、間詰石作業、石材調査等
現場実習	抜け石補充作業、間詰石作業への参加
総合討論	講師 西川禎亮 (中村石材工業株・本協議会会員)



間詰実習



総合討論

■事務局からのお知らせ

事務局では「会員証明」の発行を行っています。業務などで必要な方は事務局まで発行をご請求下さい。

2009年第2回研修会の資料集(1000円)を販売しております。ご希望の方は下記の通り申し込み願います。

【申込方法】資料代金1000円は現金または郵便定額小為替、送料215円は切手で、両方を現金書留等の郵送で事務局に申し込んで下さい。

詳細は、姫路市立城郭研究室ホームページ(<http://www.city.himeji.lg.jp/jyokakuken/index.html>)にも掲載しております。

■事務局・広報担当からのお願い

○研修会などの参加感想や、文化財石垣について日頃疑問に思っていることなどありましたら下記事務局まで書面にてお知らせください。

年2回の会報ですが、可能な限りお答えしていきたいと思います。

○当協議会が実施する研修内容や項目について要望があれば書面で事務局までお知らせください。

内容を検討のうえ、各種事業に反映させていただきます。

○各地の文化財石垣情報、書籍、刊行物の発行がありましたら情報提供ください。

■入会手続き

入会をご希望の方は、まず事務局にご連絡ください。当協議会の入会申込書を送付いたしますので、必要事項を記入のうえ、下記の事務局へご返送ください。

役員会にて会員資格審査後、入会通知書及び会費納入の振込用紙を送付します。年会費(4月～翌3月)をお振込いただき、事務局で正式に受理した日から本協議会会員として登録します。

■文化財石垣保存技術協議会会員数

(平成26年3月31日現在)

技能会員	131名
技術・研究会員	70名
一般会員	23名
賛助会員	15名
評議員	9名

発行年月日 平成26年3月31日

編集・発行 文化財石垣保存技術協議会

事務局住所 〒670-0012 姫路市本町68-258

日本城郭研究センター内

TEL 079-289-4877 FAX 079-289-4890